

鍋足山 山行報告

1. 目的 地 : 鍋足山(なべあしやま552m) 茨城県常陸太田市(旧・里美村)
2. 日 程 : 平成18年12月3日(日)
3. 天 候 : 晴れ
4. 参加者 : 参加者6名(男性3名・女性3名)
5. 参加費 : 3,000円(ガソリン代・運転手謝礼・温泉入浴1000円・事故保険料)
6. コースタイム:

さとみ生産物直売所～鍋足林道終点～鍋足山～岩松のピーク(昼食)～三角点～猪ノ鼻峠
9:45 10:15 11:15 12:00～12:45 14:25着

7. レベル : 標高差 約380m(累積は倍くらい)、行動時間4時間40分 登山入門(A)
8. 山行状況 : バスハイク以来の山行だけどAだし気楽に登れるかな?でも樋 さん企画だから少しキツイかも・・・なんて考えながらの出発でした。登り始めの30分位は完全にAでした。が予想以上の展開が・・・垂直の絶壁をこわごわ覗きながら歩いたり、クサリ場あり、ロープあり、せっかく登ったのに下ってもったいないを何度も繰り返し、山 さん曰く「今日はBだね」に納得。でも360°大パノラマのすばらしい景色や深田久弥の艶っぽい話等付録もたくさんあり楽しい山行でした。(TM)

石岡から参加の山 さんを途中の柏原公園で拾い、ビーフラインを快適に飛ばして里美村を目指す。「さとみ生産物直売所」でメンバーを降ろし、運転手だけで下山口の猪ノ鼻峠に車をデポしてきた。ウォーミングアップに手頃な林道歩きで、雨飾山の話から深田久弥の不倫騒動に話題が移った。先月の朝日新聞土曜別刷「愛の旅人」に掲載されていた話だが興味深いので概略を紹介しよう。

家族の反対を押し切り、数年に及ぶ大恋愛の末結婚した深田は、直後に偶然再会した学生時代の初恋の女性と恋に落ち、雨飾山への旅に出る。小谷温泉で数日に亘り夜と共にした二人は、帰京後も一緒に暮らすようになる。(不倫相手の男子出産、出征、復員、離婚、再婚、盗作疑惑と続くが省略)戦後、文壇から干され不遇の時代を送った深田が活路を見出したのは、他の作家が書かない山岳紀行の分野だった。そしてこれが名著「日本百名山」の誕生に繋がったのである。 結論「不倫無くして百名山無し」

鍋足山は山名の由来となった岩峰がそり立つので、標高の割には眺めが素晴らしい。山頂からは南西に県庁ビルや水戸の市街地、涸沼の湖面の輝きが見える。北西には大子の山の彼方に日光連山、高原山、那須連山が見える。名残の紅葉越しにこれから辿る岩峰群や麓の集落も見えて期待を上回る展望。ロープや鎖場を越えた後、第3峰から右に大きく谷底まで下り、登り返した岩松が沢山生えている展望ピークで昼食。この後、左側に転べば谷底まで一直線に落下しそうな稜線の縁を通り三角点のあるピークに着く。ここにも鍋足山の標示板がある。登山道脇の春蘭の株元には蕾が二つ、落ち葉に包まれて来年春の開花を待っていた。下山口の猪ノ鼻峠からは車で「ぬく森の湯」へ移動して入浴。低山ながら岩と、展望と、紅葉と、不倫の大事さを学んだ充実の山旅でした。(HA)

9. 写真 :

紅葉



遙か彼方の山並み

